

「自分で自分を守る」という意識

いつも二人で登校していた生徒たちが、最近は別々に登校するようになりました。初めは「どちらかが寝坊したのかな」「支度が遅くなったのかな」と思っていました。その状態が二日三日続くと、私の中で「何かあったのかな」という疑問に変わりました。

「最近二人で登校しないけど、どうしたの？」

「昨日私は、二人のうちの先に姿を見せた生徒に尋ねました。その生徒の返事の全てを聞くまでもなく、最初の単語を聞いてその理由が瞬時にわかりました。」

「コロナで……」

私は複雑な心境になりました。ことあるごとに「感染症予防を徹底しよう」と言っていた私が、それを自分たちの判断で実践している生徒たちを、寝坊とか支度の遅さとかいう平凡な理由で判断しようとしていました。「二人に申し訳ない」という思いが生まれました。

また、感激もしました。本来なら、いつものように二人で登校し、寒い中の心温まるひとときとなるはずの時間に、自分たちで考えた感染予防策をしっかりと実行してくれてくれたからです。私たち教師が指示した予防策ではなく、自分たちで考え判断し、実践したということに大きな意味があると私は思います。

誤解しないでください。他の生徒にも一人で登校しなさいと言っているわけではありませんからね。友達と一緒に登校しても、北中の生徒はマスクをしっかりとつけていますし、適度なディスタンスも心がけていますので、大丈夫だろうと思っています。大切なのは、「守ってもらう」という意識ではなく、「自分で自分を守る」という意識です。その意識を自分の行動や姿に出すことです。

左下の記事は、本日の中日新聞の第一面に載っていたものです。見出しから分かるように、園の感染症対策は本当に大変のようです。園の職員は、相当神経をすり減らしながら、感染症対策に東奔西走していると察することができます。園児に感染予防を強く意識付けることは難しいですからね。おしゃべりしてしまう子、くっついて離れない子、マスクをするのを嫌がる子……幼いがゆえに、大人である職員が百パーセント守らなければなりません。市内外の園にも陽性者が出ています。やはり、守り切るといいことはなかなか難しいようです。

中学校においても、職員は生徒を守ろうと頑張っています。園と違うのは、やはり中学生は大人の部分をもち合わせている点です。そう考えるとき、自分でも考え判断して、実践することができるといえることは、大きな意味や意義をもっていえると言えますね。

(一月二十一日記)

防げ休園 保育園苦心

新型コロナウイルスの感染拡大で、全国市町の保育園は17日時点で計18万1千800園のうち約8万1千園が休園している。休園する園は、感染防止の措置がとれない園や、職員が感染した園、園児が感染した園など。休園する園は、感染防止の措置がとれない園や、職員が感染した園、園児が感染した園など。休園する園は、感染防止の措置がとれない園や、職員が感染した園、園児が感染した園など。

名古屋 過去最多82園



名古屋市の保育園で、子どもたちが活動している様子。過去最多の82園が休園している。